

2~3面 CMから社会を変える発信を

4~7面 動き始めたユースたち

The Young Women's  
Christian Association

# YWCA

10

OCTOBER  
2020

No.758

〈第32総会期主題聖句〉

平和を実現する人々は幸いである  
—マタイによる福音書5章9節—

〈日本YWCAの使命(ミッション)〉

イエス・キリストに学び、共に生きる世界を実現する  
世界の人々と共に人権・平和・環境の問題に取り組む

〈日本YWCAのビジョン〉

地域で女性達が主体的に活動することを通して、  
以下の社会をめざします。

- (1) 平和憲法が生きられ、核も暴力もない社会
- (2) 女性と子どもの尊厳を守る社会
- (3) 若い女性がリーダーシップを発揮する社会
- (4) 多世代・多文化で多様な背景を持つ人びとを尊重する社会

[www.ywca.or.jp](http://www.ywca.or.jp)

# I HOPE



for  
**GENDER  
EQUALITY**

ジェンダー平等の未来へと変えていく

## CMからポジティブな変化を促す発信を みんなで社会の新しい合意をつくろう

ここ最近、テレビ・コマーシャル (CM) に、

ジェンダーをめぐる少しずつ変化の兆しが伺えます。

その一つが、カネボウが打ち出した「HOPE」。

良くも悪くも話題になったチャレンジングなCMです。

こうした企業の挑戦を、あなたはどのように感じますか？

モヤモヤ？ エンパワー？  
社会に挑戦するCM

**Y** カネボウの最近のCM見たことある？ 多世代、多文化の女性たちが化粧をする姿が映し出されるのだが、媚びている感じが全然なくて、一人ひとりが「自分を生きている」という感じがして好感が持てた。

**W** あれね、私は「生きるために、化粧をする。」というコピーがちょっと。女性は生きる上で美しくあるべきと言われてきている気がして。「女性は化粧をして当たり前」と言われている社会にあつて、それが苦痛な人もいるよね。なのに「生きるため」なんて、ただただ目に見えない強制を強化することになりそう。

**C** ネットでもそうした声が上がっていたみたい。企業側としては想定外の反応だったんじゃないかな。別バージョン(3面)を見るとむしろ「自分らしく生きる」ことに主眼を置いていて、自分らしい生き方の一つのツールとしての化粧なんだなって思えるんだよね。

**Y** 本来、化粧をする、しないは自由。「生きるために……」のCMのラストは化粧を落とした女性がスピンで鏡に向かうシーンで終わるの。

それが凜とした佇まいで、化粧をしない自由を肯定するような。

**W** 女性に限定しなければ、もっと開放的で自由な感じになったのに。

**Y** そこは限定していないみたい。「ジェンダーにとられない自己表現としての化粧」というメッセージもあるのかもね。

**C** カネボウのWebサイト限定で完全版が公開されてね、モデルたちが語る言葉が力強い。「自分のなりたい姿をがまんして、人に合わせる必要は、まったくないと思う」「性別ですら、自分で決めていけばいい」「あなた以外の誰かに、なろうとしないでいい」「自分の心の中の声より、大切なものなんてないから」

**W** そこは、エンパワーされるね。  
その気持ちを声にして  
広告に参画している

**C** feminism (フェミニズム) と advertising (広告) を合わせて、femvertising という言葉があるんだけど、企業自身が、女性をエンパワーする価値を広告の中に取り入れる流れが世界的に生まれてきているみたいだよ。

**Y** 確かにここ最近日本でも、ジェンダーを意識したCMを少しだけ

目にするようになった。

**W** 男女の性別役割的なジェンダーに一石投ずるようなCMも出てきたね。

**C** テレビCMに限らず、否応なく目にする広告は影響力があるよね。人々の意識、あるいは無意識に、ポジティブな変化を促すCMが増えたら社会が変わるきっかけになるかも。

**Y** メッセージ性の強いCMには賛否両方の声があがりやすい。いまはSNSを通じて誰でも自分の意見を表明できるから、そこから議論が広がるといいね。

**C** たとえ小さな声でも多数になれば、企業や社会は無視できなくなる。違和感でも好感でも表明することには意味がありそう。

**W** 女性に対する差別や暴力は本当に根の深い問題。カタチだけじゃなく、本質を伝えるCMに期待したいな。

**Y** 多様な人がいて、多様な思いがあることを、企業や広告をつくる人々にもっと理解してほしいね。だからこそ、「なんか、おかしい」と感じたら、その気持ちを大切にして、どんな形でもいいから表明しよう。

**C** みんなで世の中に新しい合意をつくって、ジェンダー平等の未来へと変えていきたいね。

## 未来は変えられると信じる人々の「I HOPE.」 KANEBOテレビCM第一弾

美ではなく希望を語るブランドとして、  
「未来は変えられると信じ、自らの唇で熱く想いを発する人」を描いている。

### 出演

#### 中島セナ

モード系雑誌を中心に活躍する気鋭のモデル・女優。同世代のアイドルとは一線を画し、唯一無二の存在感を放っている。

#### ソフィア・ハジバンテリ

SNSを通じて「型にはまらない美しさ」を発信するファッションモデル。ありのままの自分を肯定すべく「#UnibrowMovement」を展開する。

#### シェリー・シルバー

自身のルーツであるアフリカの文化を、ダンスを通して世界に伝えている。ルワンダでの支援活動によって、国連のRural Youthアンバサダーに。

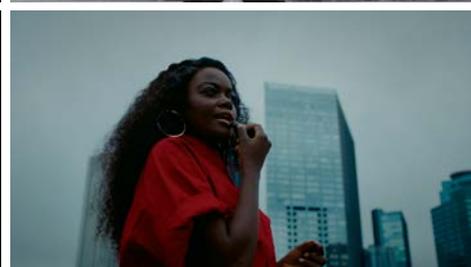
#### 井手上漠

第31回ジュノン・スーパーボーイコンテストDDセルフプロデュース賞を受賞。常に自然体で自分らしくを標榜するタレント・モデル。

WebサイトでCM公開中  
KANEBO  
<https://www.kanebo-global.com/jp/ja/>



写真提供/カネボウ化粧品



**セナ**：明るい光があるのかもしれない。

**ソフィア**：Strength is hope.  
希望を持つ人は、強い。

**漠**：自分で決めていけばいい。

**シェリー**：Always be kind.  
いつも優しさを持つこと。

**セナ**：それに気づいていないだけで。

**シェリー**：Even if people are mean to you.  
たとえ周りが不寛容でも。

**漠**：誰を好きになってもいい。

**ソフィア**：Imperfections are perfect.  
完璧じゃないからこそ、人は素晴らしい。

**セナ**：チャンスなんだと思う。

**シェリー**：Don't let the world change you.  
あなたという存在を、世界に変えさせてはいけない。

唇よ、熱く希望を語れ。

I HOPE.

# YOUTH★HOPE

YWCAでは、ジェンダーに関するさまざまな学びや活動が始まっている。  
中心になって進めているのは、**×** 20代のユースたちだ。

## for GENDER EQUALITY

しなやかな発想、大胆な行動力で、仲間を集め、  
課題の解決に取り組んでいる。  
その情熱のルーツ、思うところを聞いてみた。



# 私が動き始めた理由

オンライン・フェミニズムSNS  
キャンペーン実施中!

きっかけなんて  
なんだっていい  
一緒に動き出そう

名古屋YWCA会員 森 麻貴



すらなかった。そんな、「当たり前」  
のことにすりすぎて見逃してしまう  
モヤモヤが私は見逃せなかった。  
大学生になり、フェミニズムに触  
れる機会が多くなった。

現在、活動している

「日韓ユース・カンファ  
レンス2020」もそ  
の一つだ。今年はコロ  
ナ禍ということもあり、  
オンライン・フェミニ  
ズムとしてさまざまな  
観点からジェンダーの  
知識を深め、共に語り  
合える仲間を増やすこ  
とを目的に、Zoom上  
でのおしゃべり会や各

SNSを使ったキャンペーンを企画  
している。

ジェンダーに興味のない人なんて  
いない、と私は思う。きっと、今ま  
での「当たり前」を壊すのが怖いだ  
け。ジェンダー論は、人が自分らし  
く生きるために必要な考えであり、  
ジェンダーの観点から物事を見たら  
世の中はさらにワクワクするもの  
なると思う。

「ジェンダーについて興味を持った  
きっかけはなんですか？」

きっかけなんて、なんだっていい。  
一緒に動き出そう。

「ジェンダーについて興味を持った  
きっかけはなんですか？」  
きっかけはなんですか？」  
ジェンダーの活動を行なっている  
と、必ずと言っていいほど聞かれる  
が、この質問は私をいつも悩ませる。  
ジェンダーに興味を持った理由な  
んで数え切れないほどある。たとえ  
ば、小学生までは男女間でわりとバ  
ラバラの差はなかったが、中  
学生以降になるとほとんど男の人が  
力を持っていくようになることとか。  
私の学校では、男子の運動部には女  
子マネージャーという枠があるのに、  
女子の運動部にはマネージャーの枠

※次回のZOOMおしゃべり会は10月15日開催予定。  
詳しくは日本YWCAのSNSで

本文で紹介したマーサ・ヌスバウムの著書「女性と人間開発 潜在能力アプローチ」。パソコン画面は、企画運営に参加したワークショップ\*のパナ



「自分は自分のために存在する」と  
思える人が増えるように

東京YWCA会員 加藤初果

等に疑問を覚え、ジェンダーに関心を持つようになりました。

YWCAの活動を通してジェンダーを学ぶうちに、自分の周りにも昔の日本の家制度の意識の名残や性別役割分業意識があると気付きました。振り返れば、性別による力の不平等を無意識のうちに幼い頃から感じていたと思います。

「二人ひとりを目的とする」これはアメリカの哲学・倫理学者であるマー

私は、ジェンダーバイアスにとらわれずに生きる人が増えたらいいな、と思っています。

大学の授業でルワンダ内戦時に女性が性暴力を受けた事実と戦後は女性が中心となって村を立て直したことを知りました。紛争で男性の働き手を失ったことを皮切りに、それまで女性が持っていなかった夫や父親の財産の相続権を徐々に確立したそうです。女性が戦時中にモノのように扱われたことへの衝撃と、戦後自立するための精神の強さの対比が皮肉のようだと感じ、性別による不平

サ・ヌスバウムの言葉です。彼女は、女性が子どもを産む存在・世話をする存在と見なされてきたことを指摘し、誰もが「他者の目的のための手段」でなく「その人自身を目的として生きるべき」と考えています。この考えがDVや性別役割分業等の根底にある問題に通じていると感じます。これらの問題は、相手を自分よりも力の無い存在と見なしているために生じています。力の平等の実現と、「自分は自分のために存在する」と思える人が増えることを目指して活動していきたいです。

\*「考えよう！若者とネット社会」フェミニズムの視点から」  
日本YWCAのYouTubeで公開中

横浜YWCA「Wの会」のメンバーと生理を起すホルモンの仕組みを学んだ(2019年10月)



ジェンダーの不平等を  
性教育から変えていく

東京YWCA会員 矢田部沙羅

ジェンダーを考えることは、この「逆」の所以を考えるようなことから始まると思う。

「いまどき女性差別なんてない」と信じる女の子の何が危険か。性暴力にあっても「自分に非があるから」、性差別を感じても「自意識過剰だ」と思ってしまうこと。事実は、女性差別は存在していて、それは体系化されていて、国連でも議論されているのだ。

男性にも同じ文脈の悩みがあるらしい。デートで奢ることがプレッシャーだったり、コンドーム代の全負担に悩んでいた。この「文脈」こそが、ジェンダーではないか。

考えれば考えるほど、ジェンダーの不平等を、性行為から切り離しては語れない。だいたい、安心・安全なセックスについて学校で十分に教えられたか。保健の授業で「人権」は語られたか。不十分な性教育によって後年、苦痛を受けるのは誰か。

いま、全国のYWCAの若者と協力して「Rise Up! School Visits」という、中高生を対象とした人権教育としての包括的性教育プロジェクトを進めている。若いうちに自分や他者の権利を知って、守ることを学んでほしいから。誰もが平等な社会にしたいから。

ナンパされると、嫌な気持ちになる。断ることで逆ギレされる恐怖を、どこかで絶対に感じてくるから。その瞬間、私が少し束縛されるから。相手は無意識であってもこの構図を巧みに利用する。それが、たまたまなく腹立たしい。男子も同じ位ナンパされるのか？ されない。「逆ナン」という言葉があるのは、それゆえだ。

ジェンダーカフェの打ち合わせ。テーマは「母親との関係」だった(2019年9月)



### ジェンダーを理解するって 相手を理解することだと思う

熊本YWCA会員 海北三奈

の活動や勉強会を開催しています。

現在は、熊本YWCAのジェンダー委員会のメンバーと共にジェンダーカフェを企画し、性について意見を共有し合うイベントやマインリテイに属する人をゲストと呼び、参加者が知識を深めてもらえるようなイベントを企画しています。このように、イベント主催者と参加者の両者がジェンダー問題に触れ、解決策を共に考えることが大事ではないかと考えています。

ジェンダー問題に関心を持ったきっかけは、熊本で行われたフラワーデモに母と一緒に参加したことです。フラワーデモとは性暴力に反対・抗議する社会運動です。その会場で、性暴力の被害者である女性が涙ながらに自分の経験を語っているのを聴いて、性暴力は身近な問題であることに気がきました。そして、性暴力と関連があるジェンダー問題について知る必要があると思います、ジェンダー

ジェンダーと聞くと、セクシュアル・マイノリティや女性に論点を当てがちですが、男性にも関係がある問題です。決して難しいことではなく、相手を理解することがジェンダーを理解することになるのではないかと感じます。ジェンダー問題は、経済や環境などさまざまな分野の社会課題と関係があり、その背景を探ると私たちの生活と密接に関わっていることが分かります。だからこそ、私たち一人ひとりのアクションで社会は、いい方向に変わることが可能であると信じています。一度、差別のない社会を一緒に考えてみませんか。

※今回のジェンダーカフェは10月31日に開催予定。

地元で開かれた戦争展で、YWCAで学んだ戦時性暴力の問題を交えて平和について話した



あなたは一人じゃない  
一緒に歩んで行きましょう

甲府YWCA会員 宮川千愛美

私は、物心がついてから、違和感を持って生活していました。その違和感が「女性であること」から生じているものだと気づいたのは、中学生が高校生のころでした。いま地元の大学に通っていますが、大学という社会にも、大人の社会と同じように、女性であることで強いられる苦しみがあります。差別や暴

力があります。望んでいた将来を閉ざされることさえあります。こうした問題は、まるで「ないこと」のように埋もれてしまい、誰にも気づかれずに一人で苦しむ人は少なくありません。こんなことがあって、いいのでしょうか。

私は大学にYWCAを立ち上げたいと思っています。そこは、一人で苦しんでいる人が安心していられる居場所であり、ともに支え合って声を上げていく運動体でもあります。過去に私が声を上げようとしたとき、助けを求めることができるスペースがもっと身近にあったらいいなと痛感しました。そして、大学生にとって頼れる人が身近にいることが、どれほど心強いことか。

私は自分も含めた女性たちに、「あなたは一人じゃない」と言いたいのです。会ったこともない、話したことがない私とあなたでも、私はあなたの味方です。苦しんでいる人、悩んでいる人に寄り添い、共に歩いていきます。一緒に考えましょう、そして一緒に笑ってこれからを歩んで行きましょう。こう考えている人は私だけではないと思います。日本にも、世界にも大勢いる。「あなたは一人じゃない」



ユースたちの熱気に包まれる日韓ユース・カンファレンス (2020年1月)

## ジェンダー平等に向けた 国際的な節目の年

2020年は、国際的にジェンダー平等に向けた節目の年と言われています。その理由の一つが、1995年に第4回世界女性会議（北京会議）が開かれ、北京宣言・北京行動綱領が採択されてから25年目を迎えたことにあります。

あの会議で「女性の人權は人權」という至極当たり前のことが国際レベルで初めて認識されました。そう、たった25年前のことです。

YOUTH★HOPE  
×  
for GENDER EQUALITY

## 北京会議から25年 シスターフッドを築いて 社会を変えていく

私が日本YWCAに就職したのは2016年4月。その頃のYWCAには、ジェンダーの問題に関心があるユースはそんなに多くありませんでした。YWCAだけでなく、日本全体でも、若者主体のフェミニズム運動はそんなに活発ではなかったと思います。個人的な話ですが、私がYWCAに職員として関わりたいと思ったのは、YWCAが「女性運動」であることが最大の理由でした。多様な女性たちと連帯して抵抗していくこと、「シスターフッド」を築くことへの希望。それは私にとって、ほとんど「信仰」に近いことなのだ

思います。

社会気運の高まりを  
差別構造を変える運動に

性暴力を告発する#MeTooや、米大統領の女性蔑視発言への抗議に端を発するウィメンズ・マーチなどに見られるように、この数年で、性暴力や性差別の撤廃を目指す社会気運は大きく高まりました。国内でも、ある種「フェミニズムが流行している」のは、このような世界的な動きに共感した多くの個人が、SNSへの投稿を中心に「もうたくさん!」と声をあげたからだと感じています。

こうした流れを嬉しく思う半面で、SNSでは言葉やイメージだけが独り歩きしがちで、ジェンダーの本質的な問題が伝わりにくく感じます。ジェンダーを取り巻く政治状況は、北京会議から25年たっても根本的には変わっていません。最近の潮流を、ファッションのような「かっこいい流行」で終わらせず、差別的構造に気付き、変革するためのラディカルな思想と運動を展開させることが肝要です。

### 本質を見定めること 柔軟な発想をもつこと

私が担当しているプログラムの一つ「日韓ユース・カンファレンス」では、日韓に共通する課題について、両国のユースが共に学び、自らにできるアクションプランを計画しています。2019年は「ミソジニーと日韓#MeToo運動」をテーマに韓国で開催しました。日本軍「慰安婦」問題を記憶する「戦争と女性の人権博物館」を訪



「北京+25ユースタスクフォース※」のメンバー、ドリーン・モラーさんと昨年の世界YWCA総会で初対面した

した参加者の一人は、「慰安婦」問題がいまも解決されない根底にミソジニー（女性蔑視）があることに気付いたといっています。さらにそれが、性暴力を軽んじる現代社会に受け継がれていると感じて立ち上がり、いま実行委員として行動を共にしています。

今年度の日韓ユース・カンファレンスでは、オンラインでフェミニズム運動を展開し、「なんかおかしいよね、この国の社会構造」という気付きを得ることから始めています。またこの4月、国内外の政策提言の場でジェンダーに関するアドボカシーを担うため、日本YWCAに「北京+25チーム」が新設されました。7月〜8月には、ジェンダー平等に向けた5年間の国の方向性を定める「第5次男女共同参画基本計画」に対するパブリックコメント提出の準備を進めてきました。11月には北京会議から25年目を総括するプログラムを予定しています。

問題の本質を見定めることに関しては手を抜かず、だけどユースの柔軟な発想をもって、より多様な女性たちと「シスターフッドを築く」こと。北京+25の節目の年には、YWCAが担う大きな意義が、そこにはあると信じています。

日本YWCA職員 山口慧子

